



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 : ⑭ 認知症 (3) 治療と予防

京都府南丹保健所長 時田 和彦

認知症の概略、原因と書いてきました。今回は治療と予防です。

認知症で治療により劇的に症状が改善することは、あまり多くありません。認知症の原因別頻度は前回書いた通り、多い順にアルツハイマー病、血管性、レビー小体型、前頭側頭型やその他の疾患(硬膜下血腫、水頭症、甲状腺機能低下症、ある種のビタミン不足など)です。これらのうち最後にその他として挙げた疾患は、手術や薬剤により、劇的に症状が改善する可能性があります。ただし、認知症の症状が出て長期間経過してしまうと、治療効果が出にくくなります。どの疾患でも、早期発見早期治療が大切です。

認知症の原因で最も頻度の高い、アルツハイマー病の治療では、いくつかの薬が使用可能です。コリンエステラーゼ阻害剤(ドネペジルなど)と、NMDA 受容体拮抗薬(メマンチン)などが主に使用されており、症状の改善や病気進行の抑制が期待されています。

最近、脳内のアミロイドβプラークを減らす効果がある薬、アデュカヌマブが米国食品医薬品局(FDA)で承認を受けました。アルツハイマー病はアミロイドβが神経細胞に蓄積して発症するとされており、この薬は病気の根本的治療につながる可能性があります。しかしアミロイドβの減少が本当に症状改善につながるのか、副作用はどうかなど不明な点も多く、今後日本でも承認されるかどうか、注目されています(2022年3月時点)。

認知症原因の2番目である血管性認知症は、前回説明した通り、脳梗塞や脳出血を繰り返すことで発症します。またある種のビタミン不足は、アルコール依存症の患者に多く発症します。これらの疾患は、若いころからの食習慣・生活習慣の改善、節酒などにより予防可能です。また前述のアルツハイマー病も、糖尿病との関連が指摘されています。

認知症予防のためにも、若い頃からの適切な食事、適度の運動、禁煙、節酒に心がけましょう。(新型コロナ等を考え、今後しばらく本稿を休止します。)